



第 34 号

平成21年7月1日

〈発行〉

(社)江田島市シルバ－
人 材 セ ン タ ー

江田島市江田島町中央1-15-15

江田島市シルバークラブリブ

TEL (0823) 42-5211

FAX (0823) 42-5051



料理講習会 (1月23日：鷺部公民館にて)

魅力あるセンター造りをめざして

理事長 風呂井 侃

五月期の総会を終了しましたが、早くも初夏の暑さを感じる季節となりました。

会員の皆さま、市民の皆様には、ご壮健でお過ごしのことと存じます。

さて、平成二十年度を振り返ってみますと景気は停滞し雇用情勢は回復の兆しが見えない状況が続いています。また、国や地方公共団体の行財政改革が加速するなど、シルバー事業を取り巻く環境は依然として厳しいものがあります。当センターの事業実績を見ますと、新規加入会員数十八人、脱会者四十五人と会員数は三十七人の減となっています。全国的に見ても、一つの理由としては年金支給開始年齢の引き上げに対応して六十五歳までの雇用継続措置の促進が図られ、六十歳前半層の加入対象者が減少したことも入会者減の要因となっていると思います。また、退会者増の原因としては希望職種が少ないことがあげられると思います。

また、センター設立当時と異なり、近年はNPOや市民団体等による様々な活動が広がり、高齢者の雇用就業をはじめボランティアや健康・文化等の多様な社会参加活動のニーズに応える魅力あるセンターづくりが会員と一緒に知恵と力を出し合って参りたいと考えています。これに関連して三点ほど申し上げます。

一つ目は、シルバー人材センター事業の活性化推進として、企画提案方式による補助事業の採択を国・市に要望しセンターの新しい独自事業に加えることにより、会員の就業機会を市民や行政からのシルバー事業に対する評価を高めると同時に、会員自らも誇りと喜びが見いだせるものと考えます。

二つ目は、数年後には六十五歳以上の高齢者が増大する中で、センターの活動の場を広げていく必要があると思います。

三つ目としては、シルバー事業に対する国及び市の支援の要請についてであります。国に対しては全シ協が、市に対してはシルバーが、企画提案方式の補助事業についての説明を行い、併せてシルバー人材センターの運営についての理解を深めていただくと共に、支援の要請を行います。

シルバー人材センターでは、地域に密着した事業運営体制を確立させて発注者と働く会員双方のニーズに満足度の高いサービスが提供できるよう魅力あるシルバー人材センターづくりを目指して参ります。

三月期通常総会

活発な討論で議案が承認される

三月二十七日午後一時半から三月期通常総会がシニアワークプラザの会議室でもたれました。

開会宣言のあと風呂井理事長が「全国シルバーの合言葉は『福祉の受け手から社会の担い手へ』です。いつまでも元気で地域のために力をつくしましょう」とあいさつ。ついで江田島市長から「日ごろからの市政への協力、感謝しています。これからも元気で仕事に励まれることを願っています」

ついで山木市議会副議長があいさつ。八木信寿会議員を議長に選出。

事務局から「会員二四名中、委任状一四二、出席二四名、計一六六名で総会は成立している」と報告。議事録署名人に落野弘、小松貢会議員を選び議事にはいりました。

二十年度収支補正予算案の提案の後、審議に入りました。

「補正のお金はどこから出るのか」の質問に「他の科目から流用する」と答弁。他に質問無く、挙手採決に移り、賛成多数で可決。

次いで八木議長は五号議案「平成21年度事業計画(案)について」、六号議案「平成21年度収支予算(案)について」一括して取り扱うことの承認を求め、承認ののち事務局が提案。

事業計画では、



「人件費の二〇%カット。受注は前年度公共は九%減、民間は九%増えている。金額は一四二万円減で、就労の機会を増やす。そのために会員一人ひとり

多様な就業と多種の社会参加を

五月二十九日、二十一年度五ヶ月期通常総会が江南ふれあいセンターでもたれました。

風呂井理事長は開会あいさつで「平成二十一年度六五歳以上の高齢者は全人口の二・三%。こういう事態の中で高齢者の多様な就業と社会参加が増加してきます。国の企画提案方式という補助事業もありますのでこれにとりくんで行きたい。」

田中市長は

「平素からの市政への協力に感謝しています。これからは以前にも増してシルバーの役割は重要になってきます。地域を支える集団としてますます活躍されることを期待します。」

次いで山木市議会副議長のあいさつがありました。

が注文をとるよう心掛けることが大切。また、運営は事務局中心から会員中心とし、積極的に仕事をつくっていくようにする。その一つとして農業支援グループを作る。会員は現在二四名、四月入会予定は十一名、会員数を三〇名とする」これに対して「運営を会員中心とする」という質問に「事務局中心を理事会中心とする」と答弁。また「三〇名の会員目標は不可能ではないか。入会しない理由は」に対し、「入会しない理由はつかめていない。

下谷源蔵会議員を議長に、八木信寿、登地靖徳会議員を議事録署名人に選出し議事にはいりました。

一号議案の「二十年度事業報告」では、会員の獲得、就業機会の開拓、自主活動グループの設立、互助活動への支援など。二号議案の「二十年度収支決算」、監査報告が行なわれました。質疑・討論にうつり、大川博正会議員から「会員への事業配分の公平性を保つ

ためにどのような配慮をしているのか。退会の理由に未就業というのがあるのではないか」と

の質問。これ



三〇名の目標は全国シルバーの目標に合わせて設定したもの」と説明。また「今まで就業開拓や副班長制度の導入などで意見をあげてきたが一つも実行されていないのではないか」という厳しい意見に対して事務局は「来年度実施する方向で検討中」また「シルバーの農業支援についてもつと宣伝する必要がある」などの意見が出ました。これで討論を打ち切り採決に移りました。多数の賛成で五、六号議案は承認され、総会は終わりました。

に対して二井事務局長は「希望職種と受注職種がマッチしないため未就業者が出る。そこで新しい仕事の開拓と未就業者についての適正な就業ができるよう努力する」と答弁。採決に移りました。

二号議案の「二十年度収支決算」では質疑もなく採決に移り、両案とも賛成多数で承認されました。

三号議案「理事・監事の選任では 風呂井侃、豊島喜登志、小松貢、久留須博恵、八木信寿、西野文三、山田タケ子、的場重視、澤岡邦恵、大迫敏夫、森合修、上向井明信、上田英夫、森井勉、田口宜久、釜賀恒美、登地靖徳、二井省三が理事に、監事には井川伍、野崎剛睦が選任され、新しい理事会の協議で、理事長に風呂井、副理事長に豊島、常務理事に二井(事務局長)の各理事が選任されました。

岡山県総社市、広島県三次市
シルバーを訪ねて

理事、監事研修会に参加して

一月二十六日、岡山県総社市シルバー人材センターで剪定の枝葉チップを、二十七日、広島県三次市でチップ、アンテナショップ「よりんさい」事業を視察しました。

総社市のセンターでは十三時三十分から事業の内容、規模等の説明を受けました。同センターは周囲を田園に囲まれ、建物は二階建てで、遠方からもよく見えるところにありました。

会員は九七〇名、うち男性は六三六名、女性は三三四人で、市の人口に対する粗入会率は四・九%、女性の多いのが目につきました。事業費九〇〇〇万円のうち、独自事業収入四、七〇〇万円、剪定、伐採した樹木をチップ状に粉碎して四、五メートル四方、高さ十五センチの型枠に入れて成型し、六か月間自然熟成させたものを四〇リットルの袋詰めにして三三〇円で市販している。

理事の役割は重大で、入会説明も月に一回輪番で行っていると言いたあとと屋外作業場に



行き、木の収納庫、チップシュレッダー、薪割機等機具の使用法を聞いてうらやましく思ったことは、これらが事業として成り立ち、会員が参画し、この事業にやり甲斐を感じていることでした。

二十七日は三次シルバー人材センターへ。十三時二十分から事業内容を聞きました。正会員は五五七人、男性は四〇三人、女性は一五四人、粗入会率は二五%。会員の提案による「チャレンジショップ」事業

植木剪定講習会に参加して

澤岡 邦恵

平成20年度の講習会には四十八名の参加がありました。私も植木の剪定には興味があり受講させて頂きました。五日間、延べ二十四時間で受講生は先生の指導を熱心に聞いていました。講師は、この道三十年のベテランで江田島町出身の宮内民生先生です。カリキュラムは四日目、五日は雨の予報なので日程を入れ替えて勉強しました。

一日目開講式、オリエンテーション、樹形仕立の技術、剪定の方法と技術

二日目剪定と整枝（実習）旧秋月小学校

三日目剪定と整枝、午前旧秋月小学校、午後旧津久茂小学校

四日目剪定の方法と技術、土と病害虫、施肥、ひもの結び方。シルバークラークプラザ。

を行っていきます。太田職員の案内で市内の「よりんさいアンテナショップ」を見学しました。市内の商店街の中央付近にあるので店は繁盛している模様。会員手作りの品（手芸品、木工製品、竹炭等）それに焼き芋もよく売っていました。事業の他、社会奉仕として保育所、小学校等公共施設の草刈りも行っています。

二日間の研修で特に感じた事は、理事の役割が大事であることでした。

M・K記

五日目作業の安全、剪定用具の使い方（実習）。シルバークラークプラザ。

講義の進め方は、その都度、質問を受け、それに答えてくださるので受講生は納得出来て次に進む事が出来、とても良かったと思います。又、実習では、旧秋月小学校、旧津久茂小学校の庭の樹木の剪定をし、とてもすがすがしい形の良い樹形になりました。

四日目のひもの結び方の実習には、ほとんどの人が四苦八苦です。習得出来れば、「こうすれば



良かったのか」と皆で大笑いです。受講生の皆さん、活躍しています。数名の方はシルバーで働いて居られます。私は、失敗しながら実践して居ります。

興味のある方、講習会は来年度もあると思いますので、ぜひ参加して技術を身につけて下さい。

現場の取材は楽しい

私が作業現場の取材を担当するようになって十年近くがたちます。

草刈り、植木の剪定、浄水場のろ過池の砂削取りなど、そこでは私の知らないことが多く、仲間から教わり、また、今まで訪ねたことのない場所に行くことで新しい発見があります。また、現場を訪ねることによって多くの仲間と知り合いになり、町中で会ったら挨拶する間柄になったことも嬉しいことの一つです。

たまたま十時の休憩時間に行きますと缶コーヒの相伴になることもあります。

この時出る話は作業の手順、効率的な仕事の仕方。時には今の政治のあり方などです。そこでは皆さんが今の政治のあり方、殺人の絶えない世相に対する怒りや懸念が語られます。私は六十年、七十年と懸命に生きてきた会員の皆さんの思い、私の思いと同じだと共感することが度々です。

G・G生



工夫をこらした 竹炭商品

三月十五日の江田島公民館まつりに出店。場所は二階エレベーター横の通路の角。理事長、事務局長、常さんと女性会員の芦川さんの四人が八時前に来て準備をしました。

九時過ぎからお客さんが来ます。年輩の女性は一リザーブドフラワーに関心があるらしく数名の方が買います。子どもには竹トンボ、売れゆきは上々です。

展示してある物は女性会員製作の帽子、竹トンボ、組木細工それに畳表で作った小さな数物など。竹炭は「お手玉の炭っ子」、におい袋の「炭小町」など工夫をこらしています。

訪れた人の質問には芦川さんや事務局長がていねいに説明しています。孫娘を連れてきたおばあさんがお手玉の作り方を教えています。針の穴に糸を通すところから始めて。

年輩の男性が「竹炭を水に入れて飲むのに使っている」と言いながら買います。芦川さんが「時々日光に

当てるといいですよ」と話すと、この人は「これが欲しくて来たんだ」と買って行きました。

ユズの実を もらいました

四月二十三日、炭焼きの取材に出かけましたが場所がわからず、支所に戻っても重松さんは不在。ちょうど支所の前の空き屋の庭の手入れを仲間がしていたので、その様子を取材しました。

作業は八時から三人でとりかかる庭木の剪定と草刈りの仕事。「まだ暑くなくて今がいちばんいい時です。こういう時はあまり



支える仲間

仕事がなく、夏の暑いさかりにはあります。「根をすごく張っているの、一度上を切つて、それから根を抜きます」と仕事の手を休めず話してくれます。

ユズの木が二本、四個ほど実をつけています。「どうせ剪定するのだから

実を持って帰ったら」と私に実をくれました。

いま一人の仲間は側溝沿いの植木の剪定、刈りとった小枝や草は持参した容器に入れます。

作業している仲間は三人、それぞれが手分けして作業を進める。その手際よさに感心してその場を去りました。

一窯に二トンの竹を入れて とれる炭は五〇〇キロ

四月二十三日の午前、大原の竹炭窯を訪ねました。そこで森合さんから聞いた話を紹介します。

「今日は二人で焼いています。一窯に二トンの竹を入れてやくと五〇〇キロの炭がとれます。やき方は、窯の中に竹を入れ、焚き口で木を燃やし、窯の温度が八〇度になるとその熱で竹が自然に燃え出します。全体に火がまわったら焚き口を閉めます。材料は切ってきた竹を一定の長さで切り、一カ月近くいぶし、そのあと一〜二カ月陰干しをします。そのあとと窯に入れて焼きます。」

見れば中央の通路の右側にいぶして黒ずんだ竹がきちんと揃えて並べられています。

「出来た炭は障害者の授産施設『青空作業所』に依頼していろいろな製品を作ってもらっています。大柿町の時はそうして販売していましたが、今はなかなか売れません。」

青竹を焼いた時にとれる竹酢液は

濃度が低い。乾燥させた竹は高い濃度の液がとれます。その液を三年から五年寝かすと不純物が沈殿していい液が取れます。」

話を聞いたのは大きな窯のそば、この大きさでは二トンの竹が入ると実感しました。

帰りぎわ、ふと作業台の隅に森合さんが作ったかわい作品があり、思わずその姿をカメラに収めました。



網にかかったのは二十匹 あまりの鯛やチヌ

― 沖美町でのゴチ網漁をみて ―

四月二十五日、雨の中を沖美町のゴチ網漁の見学に行きました。

二井事務局長の車に便乗して沖美町へ。着いた時にはすでに加藤さん達シルバーの仲間が二十人余り来ていました。

漁に出るといので小松さん達と一緒に二井さんの車で港に。五トンの漁船に乗って出港。出港してすぐ半円を描いて網のついたロープを流します。一二〇〇メートル(二本のロープ)がくり出され、最後に網が水中に入ります。そのまましばらく

船を進め網の巻き上げが始まります。船は前進をかけたままですが、網の重みでその場をほとんど動きません。巻きあげの最中に雨があがりました。「あと四分」

と漁師さんの声がかかります。ロープの口が狭まってきました。

「何がおるかな」

小松さんから期待の声があがり、愛用のカメラを構えます。

網が見えてくると機械で巻くのをやめ、手で網を引きあげます。集魚網が上げられます。中には二十四匹あまりの鯛やチヌがピチピチはねています。それを見て「わあー」と皆が歓声をあげます。漁師さんが取れた魚をしめて船の水槽に入れます。

漁が終わって食事の家に戻ります。庭ではチヌを五人の男の人がさばいています。実に手際がよいのに感心しました。

家から持ってきた刺身包丁で刺身を作るのは加藤会員の奥さん。

「私は手伝いに来たのではないのに」

とぼやきながら手

を休めさせ

ん。チヌの

切り身を焼

くいいにお

い。刺身や



われら町を

に刺身や焼き魚をとる容器が箸とともに並べてあります。みんなが席に着き、食事が始まります。

「おいしい」

とは皆の声。一人に二本ついた缶ビールを楽しむ人、にぎやかな会食でした。チヌの味噌汁をいただき、土産のチヌを一匹ずついただいた帰路に着きました。

産のチヌを一匹ずついただいた帰路に着きました。

いい経験になった これからも参加したい

一月二十三日、料理講習会が鷺部公民館で行われました。参加者は三十人。講師は会員の加藤さん、澤岡さんでした。

風呂井理事長は「人間生涯勉強、講習会に参加して知識、技能を高めてください。来月には剪定講習会を予定しています。会員以外の方の参加も呼びかけています。講習会の希望があれば考えますので申し出てください」と挨拶。

講師の加藤さんが「塩分は控えめに、一〇グラム以下を心掛けたらよいと思います。今日のは一・六グラムです。ところで、今日の調理の順番はゴマアエ、豚汁、サバの順。」とレシピに従って豚汁、キャベツの

ゴマアエ、

鯖のくわ焼

きの調理の

仕方を説明

しました。

いよいよ

調理にかか

ります。

「これはど

のように

切るのです

か」

などの声にこたえ、講師の二人がそ

のテーブルに廻って説明します。男

性の会員がなれぬ手つきでゴボウや

サトイモの皮をむいたり、白菜を切

ったりしています。

「皆さん上手でサツサとやっていま

すね」とは講師の言葉。

「四組のテーブルが一番」と副理事



鯖のくわ焼き

材 料	
鯖切り身	①鯖は皮めに十字に切れ込みを
サラダ油	入れ、青ねぎは細かく刻む
青ねぎ	②サラダ油を熱し、鯖の皮めの方から焼き、両面に焼き色が
しょうゆ	つくまで焼いて取り出し、油
A 砂糖	を捨ててもどす。
酒	③Aの合わせ調味料を加えて、
大根	弱火で味が染み込むように2
にんじん	〜3回返しながらかき付け、
塩	煮汁が少なくなったらねぎを
	振りいれてからませる。
	④大根、にんじんは4cm長さの
	短冊に切って塩でもみ水気を
	しぼって、鯖に添える。



長の豊島さんが自慢げに声をあげます。

料理が出来あがります。全員が食卓につき、食事が始まります。八木さんは「作り方が簡単でした」、梅田さんは「女性より男性が上手です。家のよりもうす味です」と話します。三班の男性は「家ではノータッチ、いい経験になりました。これからは参加したい」。六班では「おいしかった。女性の包丁さばきに感心しました」。五班では「ゴボウのササガキが出来、えらくなった」などの感想がありました。

十二時過ぎに片付けも終わり、解散しました。

●説明

鯖の「くわ焼き」は、昔農民が鋤の上で、後にスコップの上で鯖を焼いたことからこの名になりました。

チップを土に返すことで 農家に喜ばれるのでは

植木や剪定枝のチップ化事業を始めることについて理事さん達が話し合い、合意しました。その話し合いのあらましです。

野崎 チップ機械を取り入れて行う、木材のチップ化は地球の温暖化対策、環境保全に役立ちます。また土に返すことで農家にも喜ばれると思います。機械の購入には国と市から同額の補助金があります。

八木 この事業を行うと聞いて嬉しくなりました。

釜賀 チップはミカン畑の消毒や除草の邪魔にならないよう細分化しないと。

事務局長 一〇センチくらいでは、八木さんがチップの実物を示して「八木 このチップは何回も混ぜ合わせた品で、一年ではここまで出来ません。」

西野 材料は木材であれば何でもいんですね。

事務局長 そうです。



ともあるのでは。

事務局長 仕分けに人が要ります。

八木 総社市では仕分けに女性が二人ついていました。また、材料を入れるのも女性とのことでした。

材料集めは

事務局長 機械の刃のことですが、一枚八万円です。砥ぐと四回くらいは使えます。

八木 シュロの皮は繊維が多く、刃にまとわりつきます。

釜賀 剪定作業をチップまで含めてやるようにすればよい。

森合 業者に話をすれば材料はくれるはず。

大迫 市内の造園業者にも声をかけたら。

機械はレンタルで

事務局長 剪定枝はトラック一台について二千円くらいです。トラックは一台を考えています。一か月の料金は三万二千円、それに保険が三万円。五年リースでやると五年先には自分のものになります。車は「軽トラック」を考えています。目標の七五%以上をやれば毎年補助が出ます。二年目からは二百万円です。
登地 前向きに検討すべきですね。

設備費は要

らなく、人

手は要るの

で雇用対策

にもなりま

す。また、

チップを畑

に入れるこ

とで農業の

振興にもつ

ながると思

います。問題

は安定して材

料が入る

かどうかです

ね。

豊島 機械はいいものを買わねば。

チップに竹炭などを入れたら



事務局長 来週、三原、福山に視察に行きたいと思っています。視察対象は工場や倉庫など環境をと考えています。

野崎 家の近くにムクの木があります。市に頼んで伐採と剪定してもらいます。太い木がチップ化できるような機械をとり入れたらよい。

事務局長 直径十八センチの木が切れる機械を買う予定です。来週あたり第一回の視察に行く予定です。

風呂井 堆肥を作る必要がある。それには竹炭を入れたらよい。また、これを使って花の苗づくりをして売ったらと考えています。

釜賀 カリやチツソも加えたら。

森合 肥料メーカーが一トン千円くらいでおろしています。それとのかねあいも考えなくては。

大迫 下水の污水处理場から出すものをもらって混ぜたら。

森合 いろいろなことをやりながら改めていくといいと思います。

事務局長 理事会にひき続く話し合い、本当にありがとうございます。

ようこそシルバークーパへ

二十年四月以降次の方が入会されました。

大迫一夫	森脇悦夫	新本輝三
松下昭博	畑本敏雄	三笠政徳
胡子知久	沖井京子	登地靖徳
曾根年数	平木義光	藤岡敏彦
中下与一	大年正光	上向井裕三
條島恵	條島康代	橋野雅誉
大下勇	西本潔	久保恵美子
奥田一重	山田勇	空本光法
濱野勝也	白沢文恵	田口宜久
小野山貢	島村元弘	谷上哲行
飴野正彦	小河淑文	沖山武

夏の風物詩 盆灯籠作り



俗にその形から「アサガオ灯ろう」とも言われ広島市とその周辺で独特の習俗となっている。

一打ごとに歓声のあがった グラントゴルフ

四月三日午前十時からセンター横プラザ脇の中央公園でグラントゴルフ大会が始まりました。参加者は五十五名。

一チーム六名から七名、八組で成績を競います。

十時、組ごとに整列した列に向って加藤互助会長の「楽しくやりましょう」と開会のあいさつがありました。終わってそれぞれの出発位置について開始。ホールの位置にはそれぞれ遠近があり、距離のあるホールに向けては強く打ちます。でも、ホールを数メートル過ぎて止まるもの、力を少し弱めて打った球は手前で止まる。ホールインワンをねらってもなかなかうまくいきません。でも、打つたびに歓声があがり、場内はにぎわいます。

すべてのチームがまわり終えたのは十時四十分ごろ。そのあと花見会。小松さんはじめ数人の会員が宴席のシートを敷きます。そこに女性会員を中心にした人達が弁当とビール、お茶を配ります。

全員が席に着いたところで加藤さんが開会のあいさつ。その時、益村さんから清酒二本の寄贈があったと紹介。ついで風呂井理事長が「合併して（江田島シルバーと大柿高齢者事業団）、三回目の花見。お互いに元気でなければ何も出来ないの、

元気です。う」とあいさつ。次いで正井副市長が「三月十九日次年度予算が通過した。持続可能な江田島市を実現するため協力」とあいさつした後、乾杯の発声。皆がそれに和して宴会が始まりました。

冒頭、加藤さんがゴルフの結果を発表。それぞれに賞品が渡されました。

優勝は川本松実さん。

準優勝は八木信寿さん。

ホールインワン賞は、仁井清治さん。

ブービー賞は加藤孝右さん。

ホタル賞は豊島副理事長。

宴会は二時間続き、十四時ごろに散会しました。



自治会の行事に参加して

去る五月九日、「児童週間」の一環として鷺部子供会主催のウォーキングに参加しました。

鷺部公民館九時集合、保護者の方の準備体操を終え注意事項を聞いて九時三十分出発しました。子供達は早く行こうと意気こんでいました。

鷺部公民館前の県道を横切って横貫道まで上がります。初めて通る子が多く、こんなにきれいな道だと驚

いていました。行く先は中央公園です。予定時間より早く着き、子供達はブランコ、健康遊歩道（尖った石等がある道）を歩いたりしていました。大人達は少々バテ気味でした。その中で八六歳と八四歳の老夫婦が来ていましたが、私達と同じスピードで歩いておられたので、お二人に健康の秘訣を聞くと、まず気力が一番で次に早寝、早起きを実践することと言われました。朝は五時に起き、二人でグラントゴルフ等の趣味をしているとのことでした。

子供会の行事は事故もなく無事終了しました。子供会の役員の皆様の努力があつたことに感謝します。

— 八木 —

網戸をつけて一安心

Sさん宅では暑いので玄関のドアをあけておく猫が入ってきて、鮭や鰯のてんぷらを食べるので困っていました。そこで網戸をつければ涼しい風も入ってくると考え、設置をお願いしました。

十三日(出)、津田さん達二人がみえ、早速仕事にかかりました。

まず玄関の長さを計り、それに合わせて上下のサッシを切ります。そしてサッシを止める釘穴をドリルで抜きます。網戸にサッシをあてて様子を見ます。よかつたので上下のサッシを釘を止め、網戸を入れま

す。網戸の滑り具合を確かめ、「これでよし」と言い、おまけにドアの戸車のつけ

替えまでしてくれました。
Sさんの奥さんは大喜び。
「ありがとうございます」と何回もお礼を言っていました。

事務局だより

就業会員の募集

江田島市シルバー人材センターでは、江田島市から「就職活動を行っているにもかかわらず職業につくことができない方に、次の職業につくまでの短期の雇用・就業機会を創出、提供する」緊急雇用創出事業として「学校環境美化推進事業」の委託を受け、就業会員を募集しています。

仕事の内容は次のとおりです。

- ・ 樹木の手入れ
- ・ 校地内外の除草
- ・ その他環境美化業務

就業期間

八月一日～三月三十一日(八ヶ月)

週四日勤務(九時～十六時)

勤務地 江田島市内十四か所の

小・中学校等で一人が二か所担当。

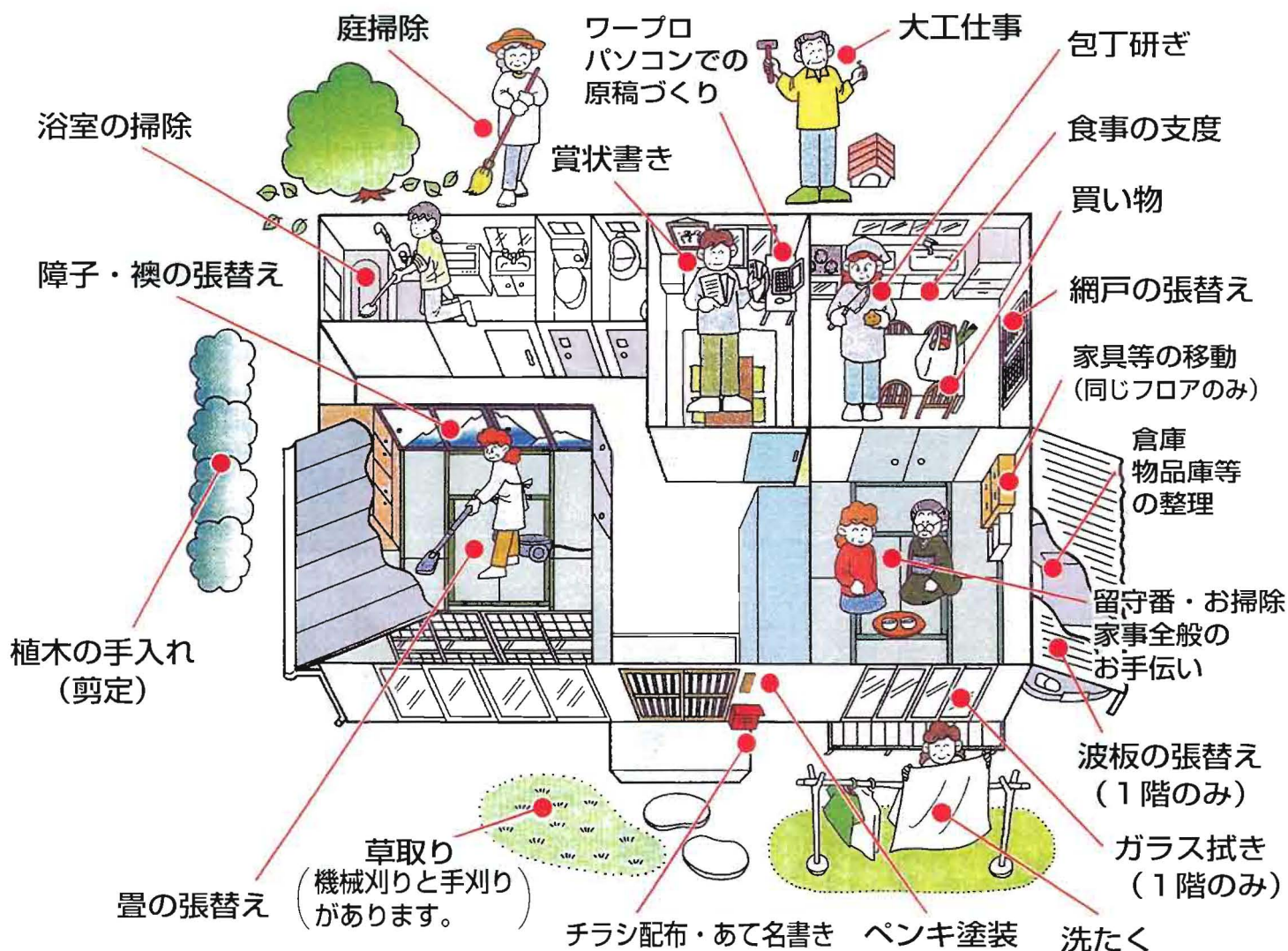
● 退任お知らせ

長い間ありがとうございました

理事の任期満了に伴い、長い間シルバー人材センターの発展に尽力していた、山佐勇様、土手正様、梶岡節夫様、下野一彦様」が理事を退任されました。

高齢化社会に対応したシルバー人材センター

シルバー人材センターはこんな仕事をしています。



会員募集中

誰でも会員になれます

- 江田島市在住の方
- 60歳以上で健康な方
- 働く意欲のある方



まだまだ元気!!
まだまだ、輝ける!!